

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
実態	成果
札幌市の共通指標アンケートより ◇振り返ったことを、次に生かそうとしている生徒・分からないことがあったときに、友達や先生に聞くようにしている生徒が8割強いる。主体的に学習に取り組むことを意識できた。 ◇人の意見を聞いて、それを参考にして自分の考えを見直すことがある生徒が9割程度いる。人と学び合う中で自らの考えを広げたり、深めたりすることを意識できた。 ◇疑問や課題を解決するために、端末を使って自分なりに調べようとする生徒・学習の中で端末を使うことは、勉強の役に立つと思う生徒が8割程度いる。知識や技能の活用を意識できた。	札幌市の共通指標アンケートより ◇自分で計画を立てて勉強している生徒が6割弱、難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している生徒が6割程度である。「自らの学習を調整しようとする側面」の向上を図る指導の工夫が必要。 ◇意見を発信する前に、自分の考えがうまく伝わるように、話の内容や順序を考えている生徒が7割強。昨年度より改善されてはいるが、引き続き表現力の向上を図る指導が必要。 ◇端末のアプリケーションを自分で選んで学習を進めている生徒が6割。自分に合った学習の仕方を身に付け、知識の定着を図る指導の工夫が必要。
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
◇札幌市の共通指標アンケートより、自分が必要とされていると感じる生徒は6割程度いるが、人のよいところを見付けようとしている・人の役に立ててうれしと感じる・人の役に立つ人間になりたいと思う生徒は9割をこえている。引き続き、「他者との協働的な学び」を通して、各々が自信をもち、新たな課題に立ち向かおうとすることができる生徒の育成が重要である。	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力 夢や目標の実現に向けて「学んだことを活用し、探究する力」

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
(1) 生徒一人一人の主体的な学びを核とした授業づくりを通して、主体的に学習に取り組む態度（調整力、粘り強さ）を育成する。生徒の自己評価を全ての教科等で生かしながら、個に応じた目標設定や学び方の工夫ができるよう、学ぶ意欲を向上させる。 (2) 「課題探究的な学習」の充実を図り、「他者との協働的な学び」を通して、思考力・判断力・表現力の向上を図る。ICT機器を活用し、思考を深め、豊かな表現活動につながるよう支援する。 (3) 「わかる」「できる喜び」を実感できるよう、個に応じたきめ細かい指導の充実をさせ、基礎的・基本的な知識の定着を図る。「学習アプリケーション」を活用し、自分に合った学習の仕方を身に付けさせる。	①本校では、生徒が伝統的に取り組んできた自治的な活動として「あいさつ運動」や時間を守る取組「5・3・1運動」を継続しているが、コロナ禍の影響が少なからずあるため、今後も取組の充実を図る。 ②校内いじめ防止対策基本方針に基づき、生徒会が中心となって伝統的に取り組んできたいじめ防止の活動「いじめ撲滅宣言」をより一層推進する。 ③あやめ野地区パートナー校では、児童生徒の自治的な取組・交流機会として「PLUS PLUS」（プラス プラス）位置付けている。毎年現状に応じたテーマを設定して取り組む予定である。	
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について		
◇(2)について、ICT機器の特性を活用し、人の意見を聞いて、それを参考にして自分の考えを見直したり、深めたりできる機会を増やし豊かな表現活動に繋げる。 ◇②について、以前より児童生徒の自治的な取組・交流機会として「PLUS PLUS」を設けている。児童会と生徒会役員がオンラインミーティングを行っているが、今後はより一層、内容の充実を図る。		

<本プログラムの実行に向けて>

